

放射線・防災教育の充実について

学校教育課通信

平成30年12月25日(火) 第142号

平成30年度10月19日(金)、白河合同庁舎 大会議室において、平成30年度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業地区別研究協議会(県南)」を開催しました。主な研修の内容をお伝えいたします。

1 実践発表 「地域と共に創る放射線教育」

西郷村立熊倉小学校長 佐藤 悟 様

- 各教科、道徳科、特別活動、総合的な学習の時間等において教科横断的な視点で実施しました。

第1学年：「ほうしゃせんってなんだろう」(紙芝居)・・・学級活動

第2学年：栽培学習(ジャガイモ、サツマイモの放射線量を測定)・・・生活科

第3学年：「霧箱で放射線を見てみよう。」(親子で体験)・・・学級活動

第4学年：学校林の中の放射線量を測定する学習・・・総合的な学習の時間

第5学年：学校田で稲の栽培をしながらの放射線量の測定・・・総合的な学習の時間

第6学年：「風評被害について考えよう」・・・学級活動



発表者 佐藤悟校長先生

2 講演 「カリキュラム・マネジメントからみた放射線教育」

東洋大学教授 大辻 永 様



- ◎ 小学校から高等学校まで、放射線教育と各教科の単元を関係づけ、子供たちの興味関心を高めながら放射線について理解を深めていく方法を教えていただきました。

3 演習 「今の福島を発信する子供たちを育てるために」

特定非営利活動法人ハートフルハート未来を育む会による演習

成井 香苗 様 小野 咲子 様 妹尾美由紀 様

〈ロールプレイ：福島を聞かれたとき〉

〈ピアミーティングの体験〉



東京の人：

「今の福島はどうかの？
放射線で大変じゃないの？」

生徒：

「いいえ、私たちは、放射線をいつも測定して安全なところで生活しているし、安全性が証明されているものを食べているので、元気ですよ。」

Peer(仲間) Meeting(集い)とは

子供たちが悩みを打ち明けることによってストレスを軽減させる手法です。同じような問題を抱える者同士の語り合いです。ファシリテーターの進行のもと、一人ずつ話し手になり、他の参加者が傾聴します。安心して語り、聴いてもらえる場を体験しました。

※ 演習を通して、根拠をもって今の福島を伝えることの大切さを学びました。

4 演習Ⅱ「日本赤十字社福島県支部と連携を図った演習プログラム」保原高等学校 教諭 菅野勇一郎 様

◎ 本演習では、防災コミュニケーションワークショップとして、ドロ잉・チャレンジを行いました。1チーム6人で、それぞれ人差し指1本だけを使って、ペットボトルに差し込まれたマジックで絵を描いていく活動です。どのようにするかを6人で話し合わなければ、ペットボトルを安定させることができません。この演習を通して、自分の意見をきちんと伝えること、他の人の意見をきちんと聴くこと、そして全員で意見を出し合って決めることの大切さを学ぶことができました。防災教育を進める上で、コミュニケーション能力は、重要な能力であることを改めて感じました。



5 講演Ⅱ 「持続発展可能な地域とこれからの放射線・防災教育」 滋賀大学 教授 藤岡 達也 様

◎ 避難訓練の実施例をもとに、万が一の事態に役立つための訓練の在り方についてお話しいただきました。避難訓練については、学校単独ではなく、自治体との合同訓練や幼・小・中合同の訓練など、



多様な取組があることも紹介していただき、次年度の教育課程を考える際のヒントにもなりました。福島県で今取り組んでいる放射線・防災教育は、県内の課題解決に留まらず、県外の学校にとっても今後ますます必要とされていくものであることを改めて共有できた講演でした。

【今後の取組について】

今年度4月には震災以後に生まれた子供たちが小学校に入学してきました。このような状況において、未来を担う子供たちは放射線教育や防災教育を通して、ふくしまの「過去」に学び、「現在」を見つめながら、「未来」を切り拓こうとする態度を身に付けることが大切であると考えます。

○ 「ふくしま放射線教育・防災教育指導資料 **活用版**」の活用を！！

児童生徒が「災害から身を守るためにはどのようなことが大切なのか」「放射線等について正しく理解するためにはどうすればよいか」「風評被害やいじめ等についてどのように考え、判断し、行動すればよいか」など、授業をする際の教材研究や提示用の資料として活用してください。

なお、次の資料の活用についても有効であることが報告されています。

- ・「まもるいのち ひろめるぼうさい」（日本赤十字社）
- ・防災ガイドブック「そなえるふくしまノート」（福島県）
- ・「放射線のホント」（復興庁）

○ 年度末における引継ぎを確実に！！

「ふくしま放射線教育・防災教育指導資料 **活用版**」は、各学校ともに学級に一冊ずつ配付されています。（確認をお願いします。）来年度、確実に引継ぎ、冊子の管理をお願いいたします。